

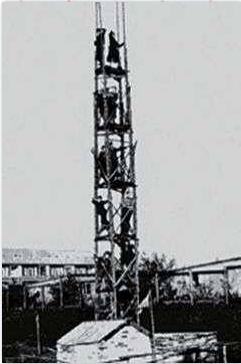
OKAYAMA
SOTOASOBI
NOTE

冒険遊び場



冒険遊び場(プレーパーク)って？

冒険遊び場は、プレーパークとも呼ばれる子どもが主役の遊び場です。発祥は、1943年デンマークに誕生した「エンドラップ廃材遊び場」です。「どうしたら子どもの欲求をかなえる環境を創りだせるだろうか」という造園家の気づきがきっかけでした。コペンハーゲン郊外の「エンドラップ廃材遊び場」の、広さ約7000平方メートルの敷地には、第二次世界大戦の爆撃の跡地があり、危険でしたが、子どもたちは、思う存分に遊んでいました。理念に感銘を受けた人たちにより、イギリス、ドイツなどのヨーロッパを中心に世界中に拡がっていきましました。



【写真：エンドラップ廃材遊び場】

出典：特定非営利活動法人
日本冒険遊び場づくり協会
ホームページより
<http://ipa-japan.org/asobiba/>



【写真：世田谷プレーパーク(東京)】



【写真：おかやまプレーパーク(岡山)】



【写真：おかやまプレーパーク(岡山)】



日本においては、大村虔・璋子夫妻によって紹介され、1979年、国際児童年の年に、東京都世田谷区に初の常設の「羽根木プレーパーク」が開設して以来、共感を覚えた各地の人々の取り組みにより、現在は全国のおよそ350の地域において、プレーパークや冒険遊び場づくりの取り組みが広がっています。

「冒険遊び場」づくりとは、地域住民が主体となって、行政との協働により、子どもにとっての魅力的な遊び環境づくりをすすめる活動です。